

「給食費の無償化」を求める意見書（案）

貧困と格差が広がる中、就学援助制度の切り下げや消費税の増税などが追い打ちをかけています。2014年の消費税増税時には、給食の質低下をまねかないよう給食費の値上げを実施した自治体もありました。今年10月に予定されている消費税増税がおこなわれれば、さらに、給食費の保護者負担が増えるおそれがあり、教育費の負担軽減をすすめようとする自治体を苦しめることにつながります。

全日本教職員組合（全教）のおこなった各自治体の給食費に関わる補助制度に関するアンケート調査や文科省の調査結果から、全額または半額以上の補助をする自治体が年を追うごとに増えていることが明らかになりました。しかし、財政力による自治体間格差が大きくなっている点も鮮明になっています。

子どもの食をめぐる状況は、成長・発達の重要な時期にもかかわらず、栄養素摂取の偏り、朝食の欠食、肥満ややせの増加など、問題は多様化、深刻化してきています。

地域を理解することや食文化の継承、自然の恵みなどを理解する上で、食は重要な教材です。学校給食は、食教育の「生きた教材・食の教科書」として、学校教育法でも教育活動の一環に位置づけられています。

公教育の機会均等の立場からも、居住する地域によって教育費負担に著しい格差を生じさせることなく、すべての小・中学校で学校給食を実施し、給食費を無料にすることが求められています。

子どもたちの健全な食生活の確立のために食育が重要な役割を果たすことをふまえ、子どもたち自身が食べる喜びと生きる力を身につけ、子どもたちの健やかな発達を保障するためにも、国の責任による給食費の無償化が強く求められています。

よって、〇〇〇議会は、国会及び政府に対し、次の事項を実現するよう強く要請します。

国の責任で、給食費の無償化をおこなうこと

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

2019年〇〇月〇〇日

〇〇〇〇議会議長 〇〇 〇〇

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
文部科学大臣
財務大臣
総務大臣

} 宛て